

福田 紀彦

Fukuda Norihiko
(神奈川県川崎市市長)



2017年は、キングスカイフロントに貴協会の川崎技術開発センターが開設されましたこと心よりお慶び申し上げます。

貴協会の取り扱うラジオアイソトープは、工業分野では非破壊検査や工業計測、製品の耐熱化・硬化に、農業分野では、病害虫に強い等の品種改良や害虫の駆除、そして医療機器の滅菌に活用される等、私たちの暮らしを縁の下から支える存在となっております。特に、医療分野においては、放射性物質の特性を最大限に活かし、重粒子線や密封小線源によるがん治療、放射性医薬品・診断薬等が、多くの医療現場で活用され、国民の健康に大きく貢献してきました。

本市のまちづくりの基本目標である「力強い産業都市づくり」の主要な取組みとして、医療・健康という人類共通の課題解決を図りながら我が国の経済の発展をけん引する国際戦略拠点キングスカイフロントに、継続的な成長が見込まれるライフサイエンス分野の企業・研究機関等を集積してまいりました。2017年は、貴協会の川崎技術開発センターの開設に続き、ペプチドリーム社の本社・研究施設、国立医薬品食品衛生研究所も開設いたしまして、現在では、60を超える研究機関等が集結し、様々なプレイヤーにより活発に研究活動が行われております。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでの開通を目指し、東京都や国土交通省等と連携した羽田連絡道路の整備も順調に進んでおりまして、いよいよオープンイノベーション拠点としての姿が見えてまいりました。

こうした中で、ここで活動する研究者の皆様がより快適に働ける環境整備、例えば昼食の場所、通勤やここを訪れる来訪者に向けた交通アクセスの強化等についても、カフェやレストランを併設するホテルの誘致、キングスカイフロントエリア内へのバス便の延伸・バス停の新設等、本市が関係機関・企業と連携しながら対策を講じてまいりました。

また、キングスカイフロントエリア内の研究機関の交流、エリア外の企業との連携による相乗効果、経済波及についても本市として検討を進めているところでございます。

「地域の課題は地域で解決する！」

「交流・連携が研究者たちを刺激、次々とイノベーションを生みだしていく！」

ここに集まった多くの研究機関の考えです。

キングスカイフロント進出第1号の実験動物中央研究所 野村龍太理事長や、ナノ医療イノベーションセンター 片岡一則センター長、ジョンソン・エンド・ジョンソンインスティテュート東京サイエンスセンター 後藤肇克センター長をはじめとしたメンバーが中心となり、今年2月に「キングスカイフロントネットワーク協議会」を設立、多くの研究機関の参画により、みんなで課題の対応策を議論して実施・解決していこうとしているところです。地域課題解決という同じ目的を持って集まった研究者たちには自然と顔と顔が見える間柄ができあがり交流が生まれ、例えば別々の分野の研究者同士が仕事帰りに一杯飲みながら情報交換する中で研究のヒントが見つかり新たな成果に繋がるということも。

こうしたことが日常茶飯事、頻繁に繰り返される、まさにオープンイノベーション拠点としてキングスカイフロントが成長していくと考えておりまして、この協議会には大きな期待を寄せているところでございます。

実験動物、ナノ医療、再生医療、ロボティクス、レギュラトリーサイエンス、アカデミアによる人材育成等に、貴協会のラジオアイソトープが加わりますと、オープンイノベーションの取組みに更に厚みが出てまいります。

こうした取組みに、是非貴協会の力も貸していただき、また、本市も貴協会の取組みを全力で支援しながらキングスカイフロントを発展させてまいります。ラジオアイソトープの供給、普及啓発、人材育成等に取り組む貴協会の今後更なる飛躍を心からお祈り致します。